

# 【令和6年度】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0947
施設名	東かなまち保育園
施設所在地	東京都葛飾区東金町2丁目13-10
法人名	社会福祉法人 清風会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「食育」  
日頃から身近で大事な「食」に注目し、子どもたちが苦手意識を持っている野菜を主役にした「食育」をテーマとして設定した。

<テーマの設定理由>

五感が発達している未就学の時期に「食」に関する知識をつけ、農業が持つ教育的な価値に目を向けて、様々な体験を得てもらいたい。  
土や野菜に触れた時の感覚や香り、生き物、植物など、「どうしてきゅうりを切ったら水が出て冷たいのか？」など、食べているだけでは気付けない野菜の不思議、自然のパワーを問いとして設定することで、「こんなの初めて見た」と「もっと知りたい（触りたい）」という子ども達の知的好奇心を育みたいと考えたため。  
「たべる」だけでなく「つくる」のところまで繋げてあげたい。

## 2. 活動スケジュール

令和7年2月：食育授業

令和7年2月：収穫体験&畑探検

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

食育授業：

- ・専門の外部講師を呼んで園内で開催できるように野菜の購入、備品の購入
- 【準備したもの】季節の野菜、野菜の種

収穫体験（大根）、畑探検（じゃがいも種植え）：

- ・子どもが収穫体験できるよう、整地や備品の準備
- ・安全な移動に配慮するための下見と人員配置（外部講師の派遣実施）
- ・農家さんと実施内容の調整打ち合わせ

#### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

食育授業：

本物の野菜を切る、ちぎる、折るなどして、五感を通じてその音や食感、外側の皮と中の部分の違いなどを知る。楽しく学べるようにクイズの要素を取り入れて実践した。外部講師が実施することで、子ども達にもいつもとは違う新鮮な情報が入っていくようで、いつもよりも聞く姿勢が出来ている子どももいた。なかなか調理前にじっくり野菜に触る時間が取れていることはなく、子ども向けに野菜のパワーを説明してくれることで、子ども達も最後まで飽きずに五感を活用して参加できていた。

収穫体験、畑探検：

練馬区の農家さん協力のもと、貸切バスを利用して大根の収穫体験を行った。土や虫を怖がるような子や、大根の抜き方も個人差が様々で、各々が楽しみ方を見つけて自然に畑で過ごす事ができていた。その他にじゃがいもの種芋を植える体験を行い、春には収穫できるという始まりの喜びを体験することが出来た。

その後も畑を探検し、スーパーでは見ることが出来ない様々な野菜の本来の姿を知る機会にもなった。昼食は畑のビニールハウス内でお弁当を食べて、自然の中で感じたり、美味しいものを食べるという喜びを体験した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

食育活動を繰り返し行うことで、子ども達の感情が「野菜も生きています」と捉えて、野菜の成長や大切さを身をもって体験している様子が伝わった。例えば「紅くるり」という大根は、外が赤いので中身を切ってみると「色なんだろう！たのしみ！」という声が聞こえたり、切ってみると「わ！」と歓声が出て、「ぶどうジュースみたい」「冷たい、みずみずしい」「皮はザラザラするけど、身の方はツルツル」という子どもならではの感想が次々と浮かび、子ども達の純粋な好奇心やワクワクしてる様子が感じられた。中には「スイカみたい」「ピザみたい」と他の物で例えるという高等な方法で理解を深めている園児もいた。保育者も一緒になって楽しんで参加することで、その時だけで終わるのではなく、今後の保育活動において保育園が伝えられるメッセージを考えるきっかけにもなった。

収穫体験では、大根の収穫は初めての子が多く、力いっぱい引き抜こうとしても抜けなくて、まずは周りを掘ってから抜くなどの知恵を発揮する場面があった。



#### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

野菜の種類や生長への興味関心が強まったように思った。

園だけで開催する場合、農家さんとの日程調整などが難しく、当日も収穫のみで終了する傾向が多い中、外部講師と連携することで、職員の負担を最小限にしながら、いつも以上に子どもたちに食育を体験させてあげることができた。